



三珠中学校校長室だより
令和8年1月30日発行
No.40【保護者の皆様へ】
文責 校長 渡邊 康裕

三珠中HPはここから！



スマートフォン、インターネット利用機器について

今号は、『家庭内における、お子様のスマートフォンやインターネット等の利用について』、主に保護者の皆様に一考していただきたいと思い筆を執りました。お子さんが既に自分専用のスマートフォン等を持っておられたとしても、どうぞ最後までお付き合いください。以下は2月4日(水)予定の新入生保護者説明会の資料の一部です。▼三珠中学校では、中学生に自分専用のスマートフォンなどの情報機器を持たせることを推奨していません。▼学校現場ではSNSに関わる多くのトラブルが発生しています。今年に入っての学校内の暴力動画のネット上の拡散であったり、AIによるディープフェイクであったり、ひとたびトラブルとなれば、学校だけでは到底指導しきれる問題ではなくなっており、警察が介入すべき問題となっています。つまり、子どもたちの手元にある便利な情報機器は、同時にとてもなく大きな危険をはらんでいるということを私たち大人は自覚すべきだと考えます。▼生活するのに便利なもの一つに自動車があります。自動車は数キロ離れた場所にあつという間に連れていってくれる優れものです。しかし一步使い方を間違えると取り返しのつかない大事故につながる危険性も持ち合わせています。そのため、どこの国でも自動車を運転する際にはライセンスを取る必要があり、ライセンスを取得させることが危険性の抑止力につながっています。▼一方で日本では、スマートフォンに代表されるインターネット利用機器は、例え持ち主が年端のいかぬ子どもであってもライセンスを取得する必要がありません。そもそもスマートフォンを持つためのライセンス自体が存在しないのです。しかし、スマートフォンは使い方によっては人の人生を狂わせたり、時に人を死へと追い込むほどの凶器にも成り得えます。ましてや、成長段階の途中にあり、物の見方・考え方が未熟な中学生が持てば、トラブルは必然的に起こると言えましょう。それらの氷山の一角が、ネットやテレビ・新聞などで騒がれているのです。▼中学校生活には学習以外にも部活動(社会体育)、学校行事、友だちや先輩後輩・先生との関わりなど、スマートフォンなどなくとも自分を成長させる充実した経験ができる宝石がたくさん存在します。子どもたちがそんな宝石の存在に気が付き、明るく健康的で充実した学校生活を送らせたい。三珠中学校は「スマートフォンを禁止したい」のではなく、「中学生の今しかできない豊かな経験をスマートの画面に奪わせたくない」と考えています。↑

▼もしも中学入学を機にお子さんにスマートフォンを持たせようと考えているご家庭がございましたら、是非とも与える前に一度、上記のことを熟考していただけたら幸いです。私は子どもにスマートフォンを持たせるのには親の相当な覚悟が必要だと考えます。そして学校もその覚悟に寄り添い、共に子どもたちを守っていきたいと考えています。▼推奨をしない学校が、このような指導をするのに、いささか違和感を覚えますが、もしもお子さんに情報機器を持たせるときには、以下の《我が家のネット利用ルール例》を参考にしてみてはいかでどうか。※以下、スマートフォン→スマホと表現します。

- 個人情報(電話番号・メールアドレス・住所・学校名など)は、必要のない相手に教えない。
- 個人情報を誰かに伝えた場合は、必ず保護者に報告する。
- 夜10時以降はスマホ・タブレットを使用しない。
- 夜間(夜10時以降)は保護者が預かる。
- 勉強中や食事中はスマホ・タブレットを使わない。
- スマホ・タブレットの保管・充電はリビングで行う。
- 自分の部屋にはスマホ・タブレットを持ち込まない。
- 不要なサイトや年齢に合わないサイトにはアクセスしない。
- 不審なメッセージや知らない相手からの連絡は、必ず保護者に見せる。
- 有料サービスの利用は、必ず保護者に相談して許可を得る。
- 会員登録やアプリのインストールなど、個人情報を入力する場合は、無料・有料に関わらず保護者に確認する。
- SNSやチャットで、人を傷つける言葉は絶対に書かない。
- LINEやメッセージでトラブルになりそうなときは、すぐに使用をやめて保護者に相談する。

写真や動画をネットに投稿する場合は必ず、保護者と相談してから行う。等 ▼今朝の新聞にこんな川柳がありました。『宿題は5秒でちやちやっとGPT』(出典:第一生命「サラッと川柳」)。5秒で宿題を終わらせるることはできても、その5秒で失っているのは『自分の頭で悩む時間』です。私たちは今、AIに使われるのではなく、AIを使いこなすための『本物の知性』を身につけなければならない時代にいます。▼世間ではAIやSNSが当たり前のインフラになっています。その流れは否定のしようがありません。しかし、流れが強ければ強いほど、流されないための『錨(いかり)』が必要で、その錨を中学生のうちに下ろしていくことは、子どもたちがこれから世の中を生きていく上でとても大切なことだと考えます。▼三珠中の先生方は、日頃から生徒たちを『家族』だと考え、『自分の子どもだったら……』、『自分の弟・妹だったら……』という思いで向き合ってくれています。今回記した内容も、そんな思いからくるものです。今後も私たち三珠中職員は誠実な教育活動を進めてまいります。